

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	12-046	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Factors associated with first utilization of different types of care for alcohol problems. アルコール問題に対する異なる種類の治療開始の関連要因		
執筆者		
Dawson DA, Goldstein RB, Grant BF.		
掲載誌		
J Stud Alcohol Drugs. 2012 Jul;73(4):647-56.		
キーワード		
アルコール問題、物質使用障害(SUD)、アルコール問題治療方法		
要 旨		
目的： アルコール問題に関連する要因は治療開始時の治療方法によって異なるかについて検討した。		
方法： 本研究は、アルコールに関する全国の疫学調査のデータ (WAVE1, WAVE2) を使用し、ベースライン時にアルコール使用障害で、いかなる治療も受けていなかった者 2,170 人を対象として 3 年間追跡した。ベースライン後の治療開始時の治療方法 [(a)物質使用障害(SUD)特異的なケア、(b)通常の医療ケア(USD 特異的なものは除く)、(c)非医療ケアのみ] と(d)治療なしについて、多重ロジスティック回帰モデルを用いて、アルコール問題に関連する要因について検討した。		
結果： 3 種類のすべての治療開始には、飲酒によって自分自身あるいは他の人を負傷させることが関連していた。(a)SUD 特異的なケアでは、男性であること、重症のアルコール使用障害、金銭問題、タバコや麻薬使用に依存しないことに、(b)通常の医療ケアは、結婚/同棲、大学生、罹患疾病数、他の物質依存症に、(c)非医療ケアは低所得および不安障害に、いずれも(d)治療なしに比べて関連していた。治療の種類を直接比較すると、通常の医療ケアの開始に関連していたのは、(a) SUD 特異的なケアや(c)非医療ケアのみと異なり、アルコール問題と必ずしも関係しない理由だった。		
結論： 以上の結果は、短期の介入もしくは強力な物質使用障害治療が必要かを識別するため、一般診療および学校の保健室におけるスクリーニングは重要であること、さらにアルコール問題を通常の医療受療で取り組まれない者のために、繰り返しの非医療ケアが必要であることを支持した。		